

# 調査団報告書

調査No.69

## 調査内容

ようきそう  
揚輝荘ができてから今年で百年。地下に謎のトンネルがあったってほんと？

## 調査手順

揚輝荘は、松坂屋の初代社長伊藤次郎左衛門祐民の別荘として、大正7年（1918年）から昭和初期にかけて覚王山につくられた。『保存情報Ⅱ』『東海の近代建築』など東海地方の建築の本を見てみると、建物自体は取り上げられているがトンネルのことは書いていない。「揚輝荘」をキーワードに、さらに調査したところ、『揚輝荘』p.8と『揚輝荘と祐民』p.49-53に地下のトンネルが写真つきで載っていた！平成19年（2007年）にトンネルの東入口が発見されたという記述があったので、もしかして当時はニュースになったかも…。そこで、中日新聞のデータベースで「揚輝荘トンネル」をキーワードに検索すると、平成17年（2005年）1月8日、同12月29日、平成19年（2007年）3月14日にトンネルについてのくわしい記事が見つかった。

## 調査結果

北側の有芳軒ゆうほうげんから南側の聴松閣ちようしようかくを結ぶ170mにも及ぶ地下トンネルで、東西にも延びていた。トンネル内部はインド風の模様で飾られていて、途中には八角形のドームもあったらしい。中日新聞の記事によると、平成19年（2007年）3月11日、工事現場での作業中に石張りの壁が見つかった。アーチ形の出入り口があり、「聴泉窟」という表札がかけられていた。

トンネルは、土地の開発などでほぼ失われ、現在入ることはできない。

戦時中は防空壕として使われており、中国から極秘に来日した汪兆銘おうちようめいをかくまう計画もあったと言われている。ただ、本来の建設目的は今でも謎に包まれたままだ。

今回の調査で使った資料

『保存情報Ⅱ』日本建築家協会東海支部愛知地域会保存研究会「保存情報Ⅱ」出版編集委員会／編集  
日本建築家協会東海支部愛知地域会保存研究会 2000

『東海の近代建築』日本建築学会東海支部／編 中日新聞本社 1981

『揚輝荘』揚輝荘の会 2011

『揚輝荘と祐民』揚輝荘の会／編著 風媒社 2008

中日新聞 平成17年（2005年）1月8日朝刊、同12月29日朝刊、

平成19年（2007年）3月14日朝刊

揚輝荘公式ウェブサイト <http://www.yokiso.jp/> （2018年7月14日最終確認）



作成：名古屋市図書館 名古屋なんでも調査団